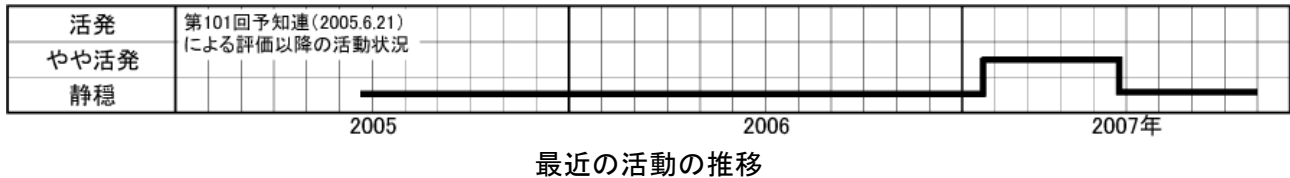


御 嶽 山

○ 火山活動評価：静穏な状況

小さな火山性微動が時々発生していますが、火山活動に特段の変化はなく静穏に経過しています。



○ 火山活動の状況

・噴気など表面現象の状況（図1、図2-①、図4、図5、図6）

三岳黒沢（剣ヶ峰の南東約 14km）に設置してある遠望カメラでは、山頂付近からごく少量の弱い噴気が時々観測されました。

19日に実施した現地調査では、79-7 火口における噴気の状況や温度¹⁾、周辺の地表面温度分布²⁾に前回（5月29日）と比べ特段の変化は認められませんでした。

- 1) サーミスタ温度計による直接測定。サーミスタ温度計は半導体の電気抵抗が温度変化する性質を利用して温度を測定する測器。
- 2) 地表面温度分布は赤外熱映像装置を用いて観測を行っています。赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を検知して温度を測定する測器で、熱源から離れた場所から測定することができる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

・地震や微動の発生状況（図2-②③、図3）

山頂付近の浅い所を震源とする火山性地震の発生回数は少なく地震活動は静穏に経過しました。火山性微動は1回発生しましたが、振幅が小さく継続時間の短いものでした。

・地殻変動の状況（図2-④⑤⑥）

GPS 連続観測では、2006 年 12 月から見られていた御嶽山の地下の膨張を示すわずかな伸びの変化は、2007 年 4 月以降ほぼ停止した状態で経過しています。



図 1 ※ 御嶽山 南東側から見た山頂部の状況（9 月 22 日 三岳黒沢遠望カメラによる）

※ この資料は気象庁のほか、東京大学、京都大学、名古屋大学、独立行政法人防災科学技術研究所、長野県及び岐阜県のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 25000（行政界・海岸線）』『数値地図 50m メッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平 17 総使、第 503 号）。

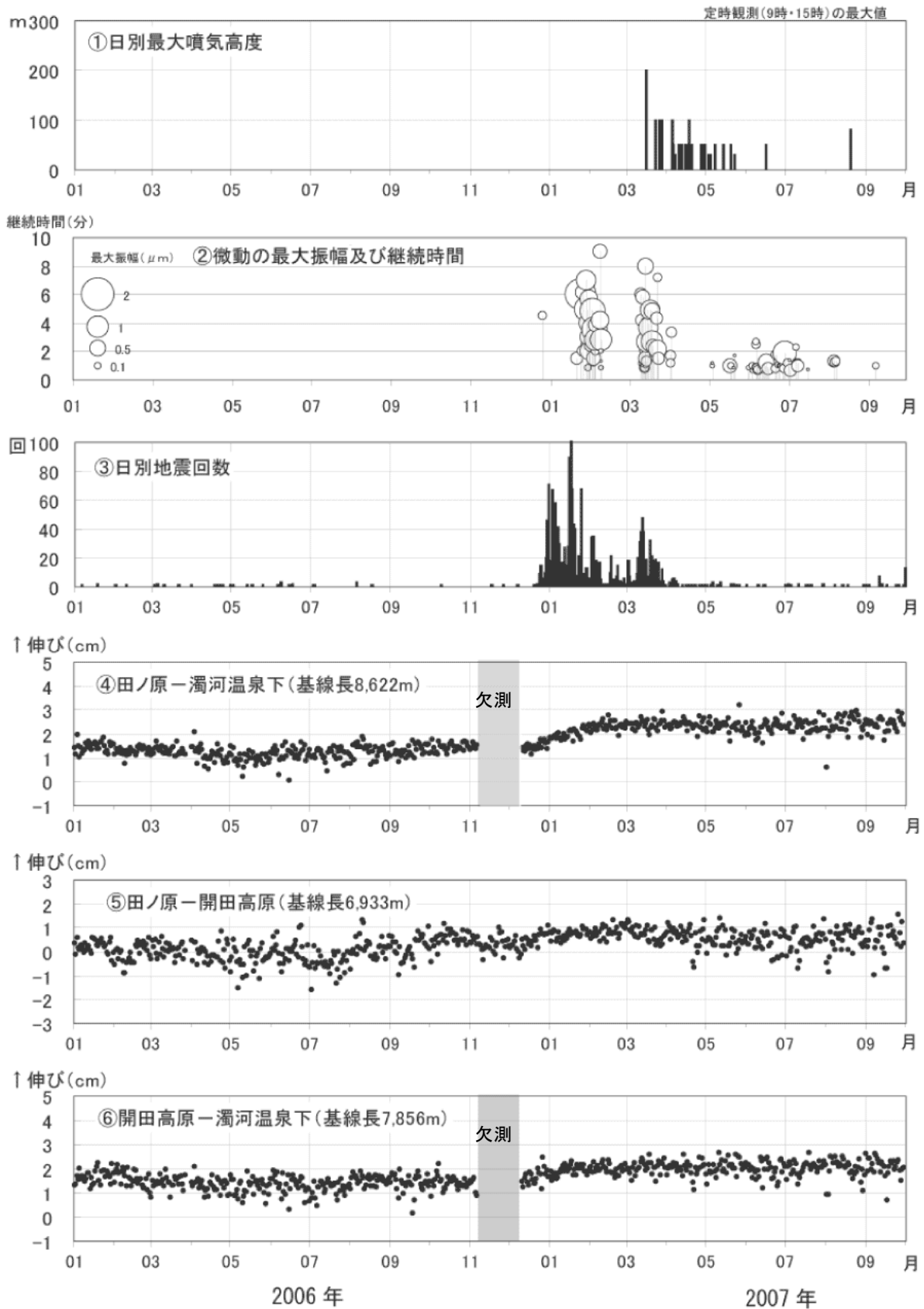


図2 御嶽山 最近の火山活動の推移（2006 年 1 月 1 日～2007 年 9 月 30 日）

図中④～⑥は図7のGPS基線④～⑥に対応しています。

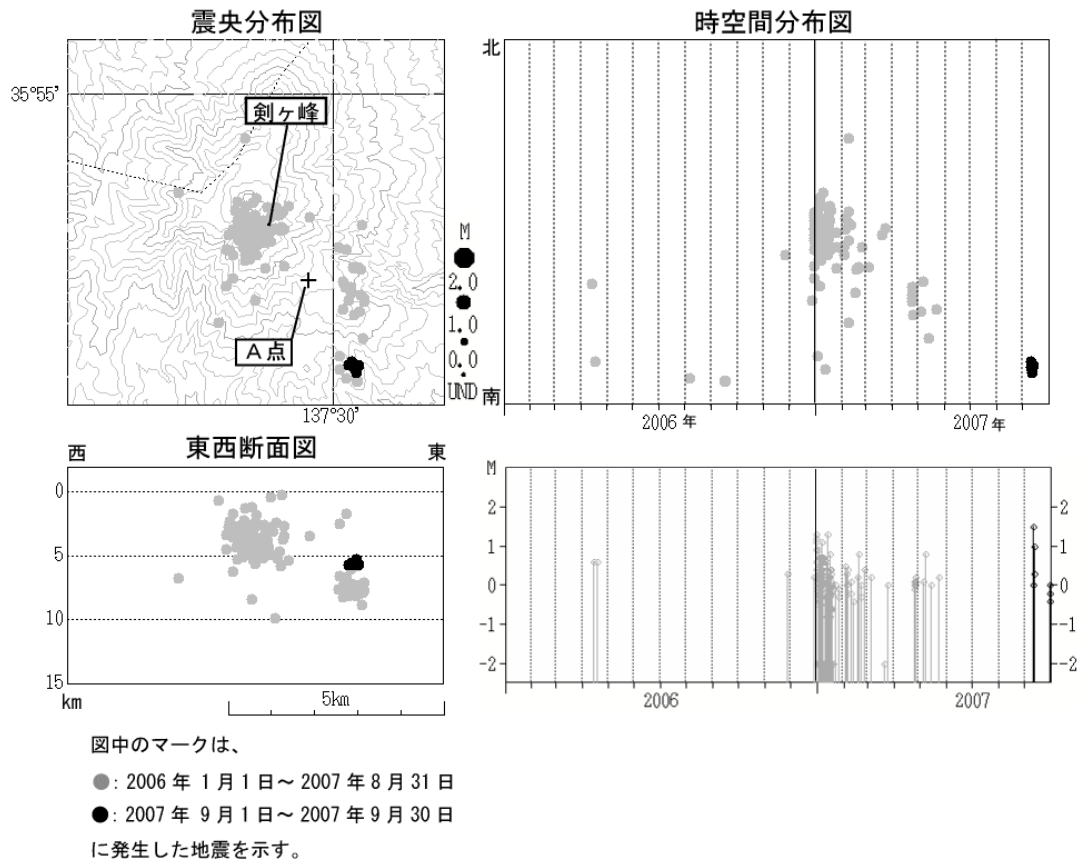
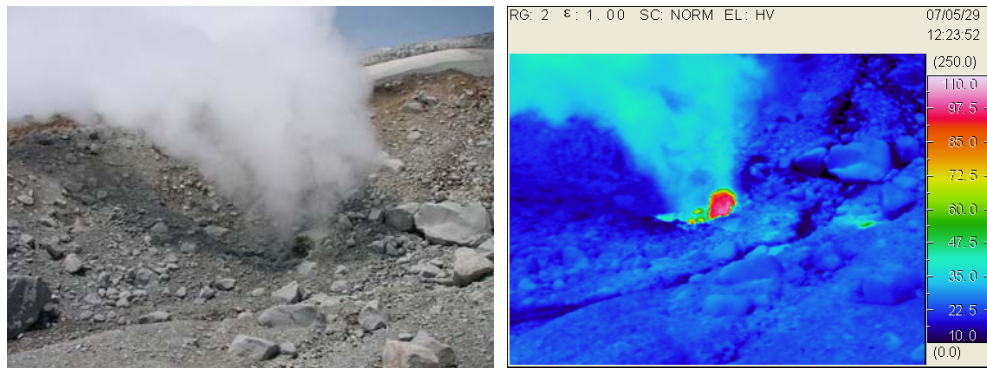
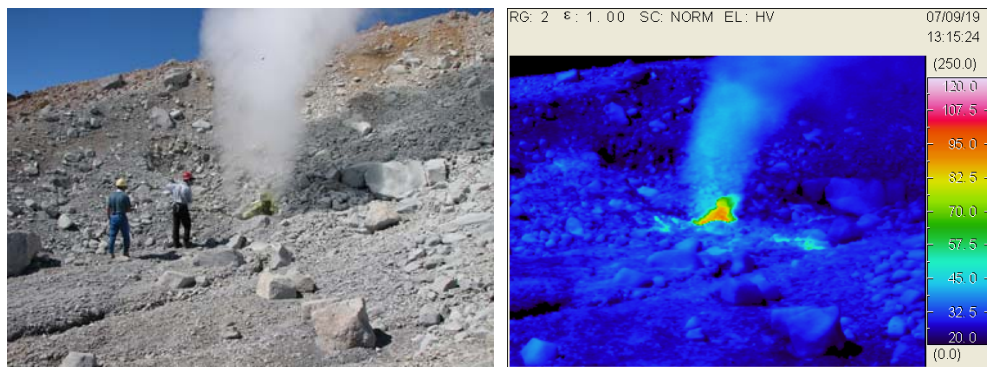


図 3 ※ 御嶽山 山頂付近の地震活動（2006 年 1 月 1 日～2007 年 9 月 30 日）
+印は気象庁地震観測点（A 点）の位置を示しています。



5 月 29 日観測実施



9 月 19 日観測実施

図 4 御嶽山 79-7 火口の噴気の状態（左）と地表面温度分布（右）

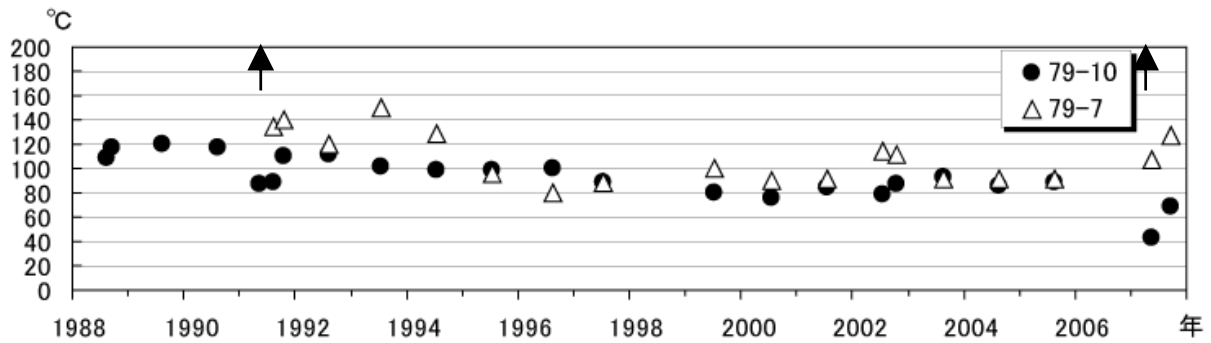


図5 御嶽山 王滝頂上火口の最高噴気温度の推移（1988 年 8 月～2007 年 9 月）
79-10 火口については、前回（5 月 29 日）及び今回（9 月 19 日）とも噴気がごく弱い状況で測定されたもの。▲はごく小規模な噴火（時期は推定）。

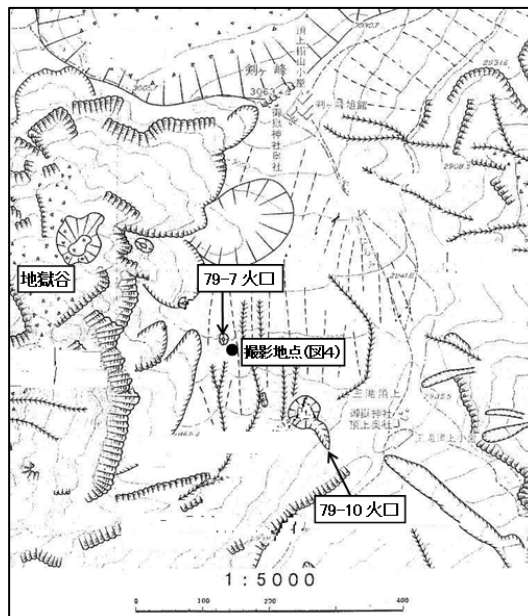


図6 御嶽山 噴気孔の分布と画像撮影地点

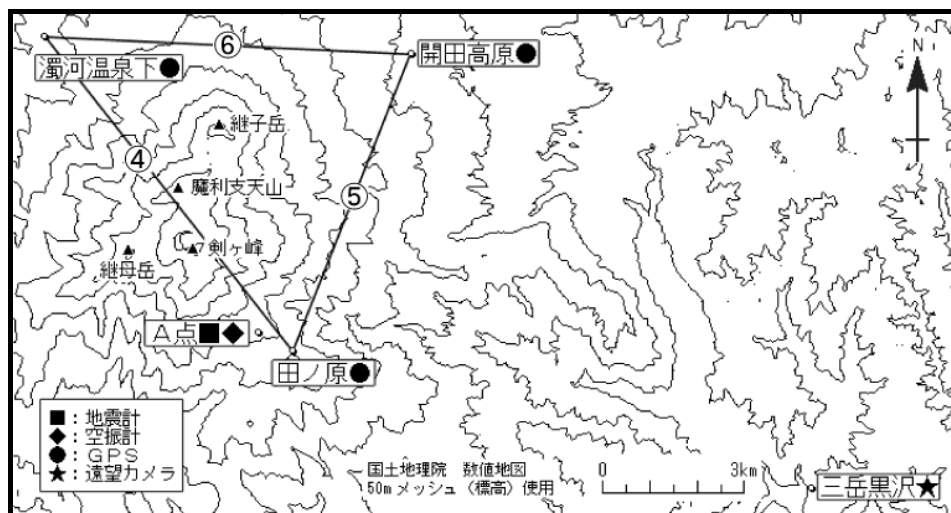


図7 御嶽山 気象庁の観測点配置図（小さな白丸は観測点位置を示しています）
図中の GPS 基線④～⑥は図2の④～⑥に対応しています。